

2026年3月期 決算説明会

2026年5月25日
(東証プライム市場 4047)



関東電化工業
KANTO DENKA KOGYO

1. 2026年3月期 決算概要

2. 業績見通し・今後の動向

3. 補足資料

損益計算書

- 売上高は、特殊ガスは渋川工場火災事故の影響を受けたものの、半導体メーカーの稼働率向上に伴う販売数量の増加や価格修正効果により増収。電池材料は本年度は技術支援料が発生しなかったものの、販売数量の増加や価格修正効果により増収。
- 営業利益は、渋川工場火災事故の影響や原燃料価格の上昇、減価償却費の増加があったものの、売上高の増収により、12億円の増益。
- 経常利益は、営業利益の増益や為替差益の増加により、21億円の増益。
- 純利益は、災害による損失を計上したものの、経常利益の増益や昨年度計上した環境対策費がなくなったことにより、5億円の増益。

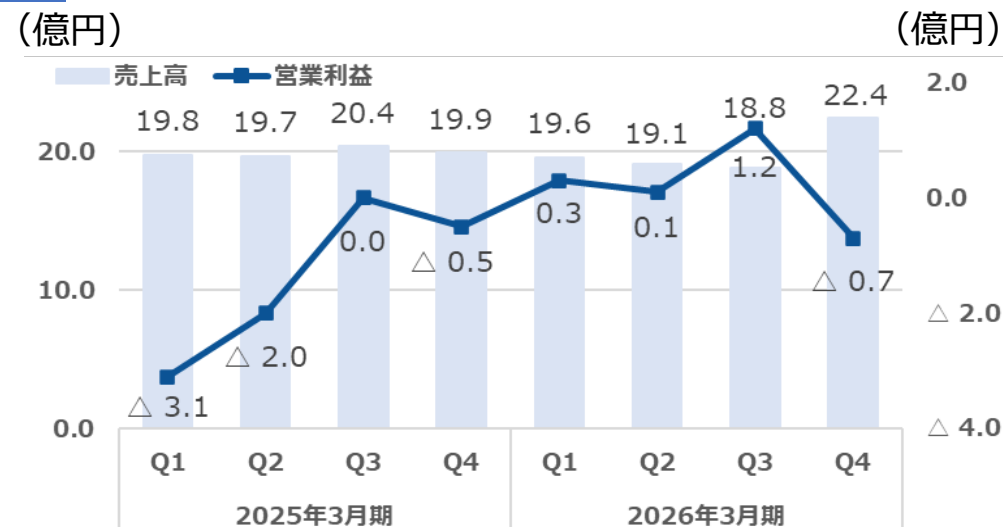
(億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率(%)
売上高	623	654	30	4.9
営業利益	42	54	12	28.2
経常利益	45	66	21	47.1
税金等調整前当期純利益	50	58	7	15.8
親会社株主に帰属する当期純利益	32	37	5	16.5
1株当たり当期純利益 (円)	56.53	65.96	9.43	

貸借対照表

(億円)	2025年3月末	2026年3月末	増減	増減率(%)
資産	1,236	1,313	76	6.2
現金及び預金	202	202	△ 0	△ 0.4
営業債権	154	188	33	21.6
棚卸資産	172	211	38	22.5
固定資産 (有形+無形)	558	534	△ 23	△ 4.3
負債	559	570	10	1.9
有利子負債	378	398	19	5.2
営業債務	75	93	17	23.3
未払法人税等	7	11	4	61.2
純資産	676	742	66	9.8
自己資本比率(%)	53.4	55.1	1.7	

基礎化学品事業部門

(億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減
売上高	79	80	0
営業利益	△ 5	1	6



【売上高】

有機製品の販売数量が減少したものの、一部製品の価格修正効果により増収

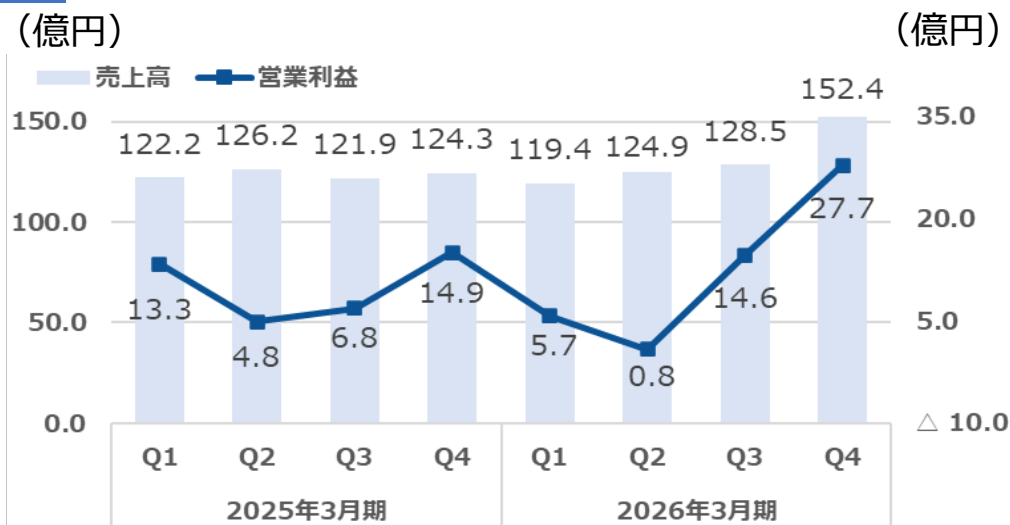
- ・か性ソーダ・・・販売数量の増加があるものの、輸出販売の増加に伴う販売価格の低下により減収
- ・塩酸・・・価格修正効果により増収
- ・トリクロールエチレン・・・販売数量の減少により減収
- ・塩化ビニリデン・・・海外向け拡販による販売数量の増加により増収

【営業利益】

一部製品の価格修正効果や原燃料価格の低下、固定費の減少により増益

精密化学品事業部門

(億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減
売上高	494	525	30
営業利益	39	49	9



【売上高】

火災事故の影響を受けたものの、一部製品の価格修正効果と販売数量の増加により増収

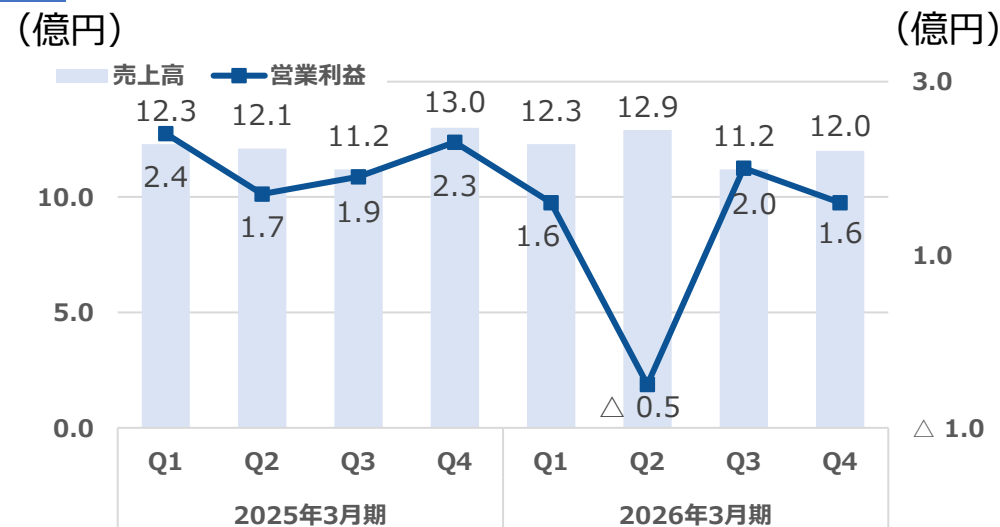
- ・三フッ化窒素・・・ 渋川工場の火災事故に伴う販売数量の減少により減収
- ・六フッ化タングステン・・・ 価格修正効果と販売数量の増加により増収
- ・KSG-14・・・ 販売数量の増加により増収
- ・六フッ化リン酸リチウム・・・ 販売数量の増加と価格修正効果により増収
- ・技術支援料・・・ 本年度は発生がなかったことにより減収

【営業利益】

火災事故の影響や原材料価格の上昇、償却費の増加があったものの、売上高の増収により増益

鉄系・商事・設備事業部門（連結調整を含む）

(億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減
売上高	48	48	△ 0
営業利益	8	4	△ 3



【売上高】

商事事業、設備事業は増収、鉄系事業は減収

- ・鉄系事業 … キャリヤーの販売数量の減少により減収
- ・商事事業 … 化学工業薬品の販売数量増加により増収
- ・設備事業 … 請負工事の増加により増収

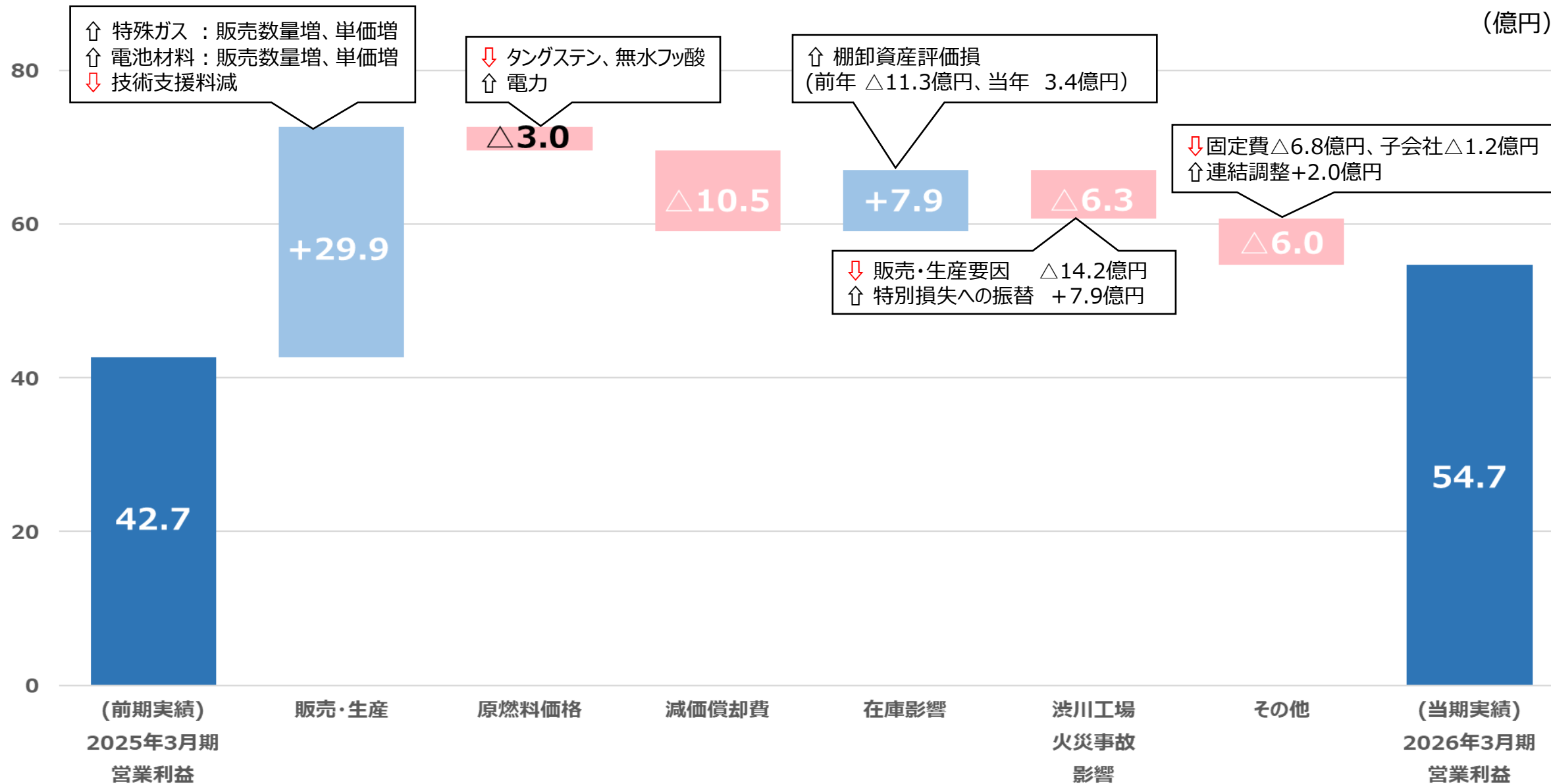
【営業利益】

商事事業、設備事業の増収はあったが、鉄系事業の減収および設備事業でのKSG-14量産設備完成により連結調整額が発生したため、減益

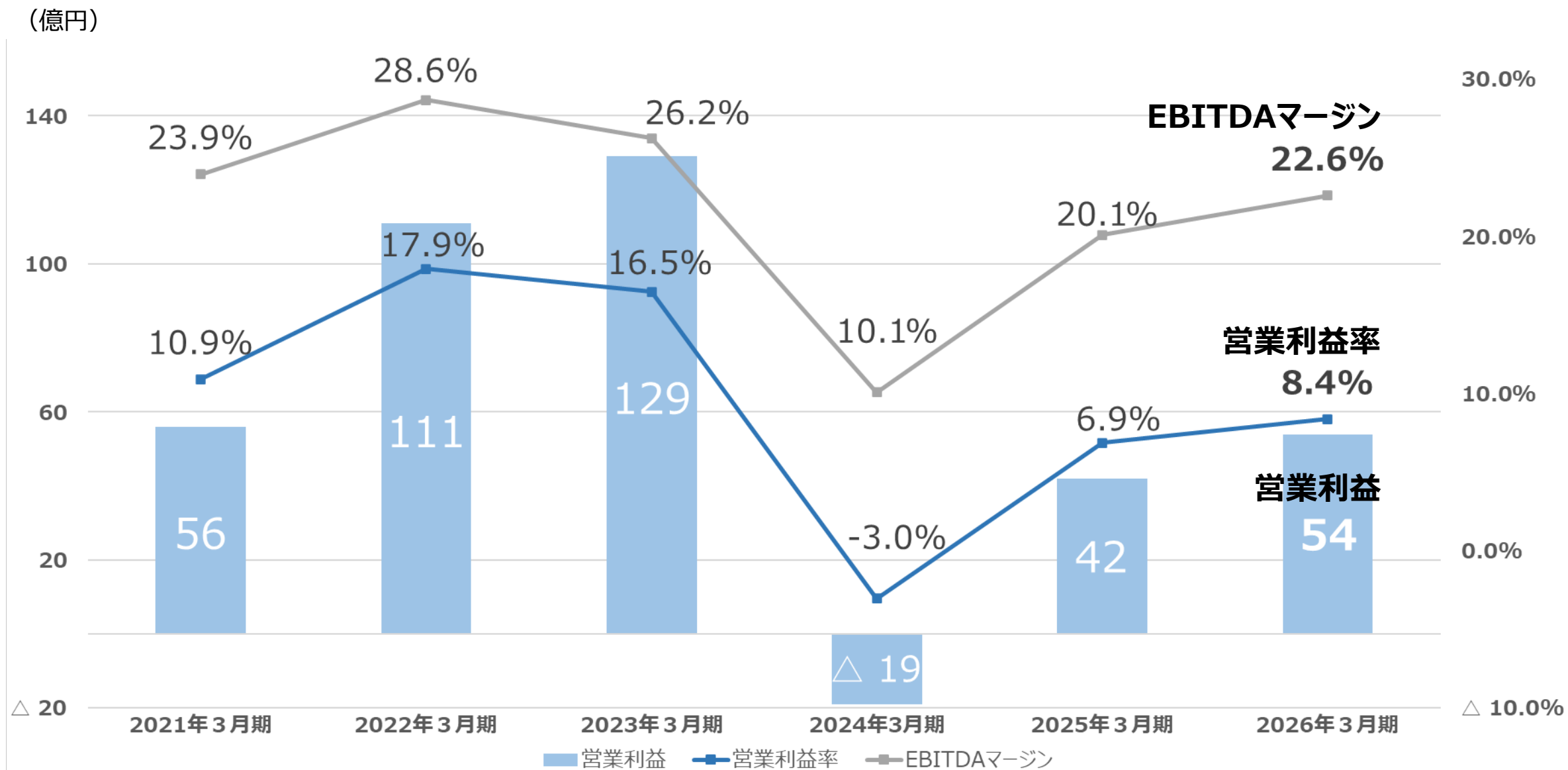
営業利益差異分析（前期実績 対 当期実績）



関東電化工業
KANTO DENKA KOGYO

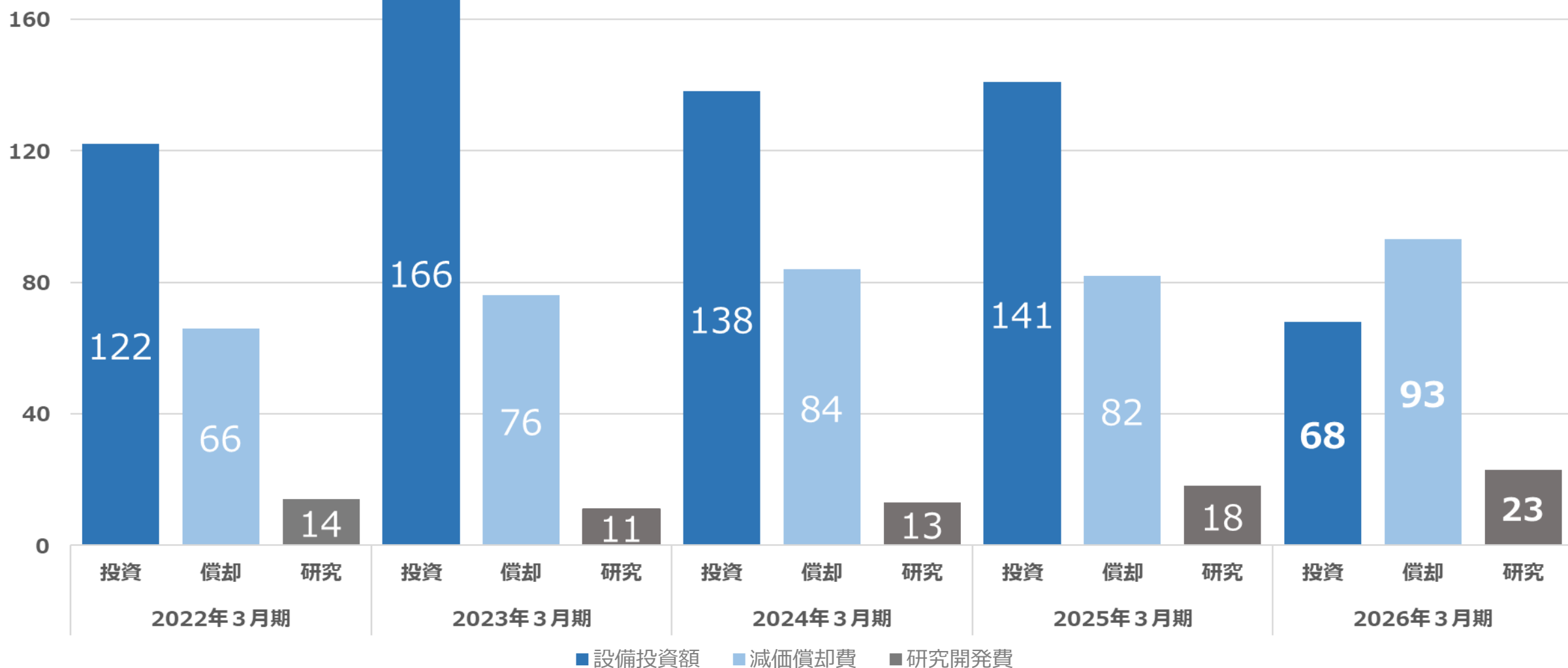


営業利益・営業利益率の推移



設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移

(億円)



関東電化グループ (連結子会社)



	資本金	出資 比率(%)	2026年3月期 売上高 (億円)	対前年 同期比 (億円)	主要な事業内容
関電興産	10百万円	100.0	78	6	化学工業薬品の販売および 容器整備、保険代理店
上備製作所	120百万円	49.4	47	0	化学工業用設備の製作・加工・修理
関東電化ファインテック	27百万円	100.0	16	10	鉄系製品の製造販売
関東電化KOREA	3億ウォン	100.0	163	12	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限公司	7百万NT\$	100.0	73	△2	フッ素系製品の販売
関東電化ファインテック(株)韓国	420億ウォン	100.0	33	△3	フッ素系製品の製造・販売
宣城科地克科技有限公司	50百万\$	98.3	4	3	フッ素系製品の製造・販売
		合計	415	26	

1. 2026年3月期 決算概要

2. 業績見通し・今後の動向

3. 補足資料

業績予想

- 売上高は、半導体需要の拡大による特殊ガスの販売数量の増加や、原燃料価格の上昇に伴う価格転嫁を見込むことに加え、電池材料の脱中国化の流れに沿った、米国を中心とした新たな需要の拡大による販売数量の増加および価格修正効果を見込むことにより、296億円の増収見込み。
- 営業利益は、原材料価格の高騰や固定費の増加があるが、売上高の増収により、45億円の増益見込み。
- 中東情勢の緊迫化の影響については、原材料価格の高騰などを合理的に見込まれる範囲で織込み済み。

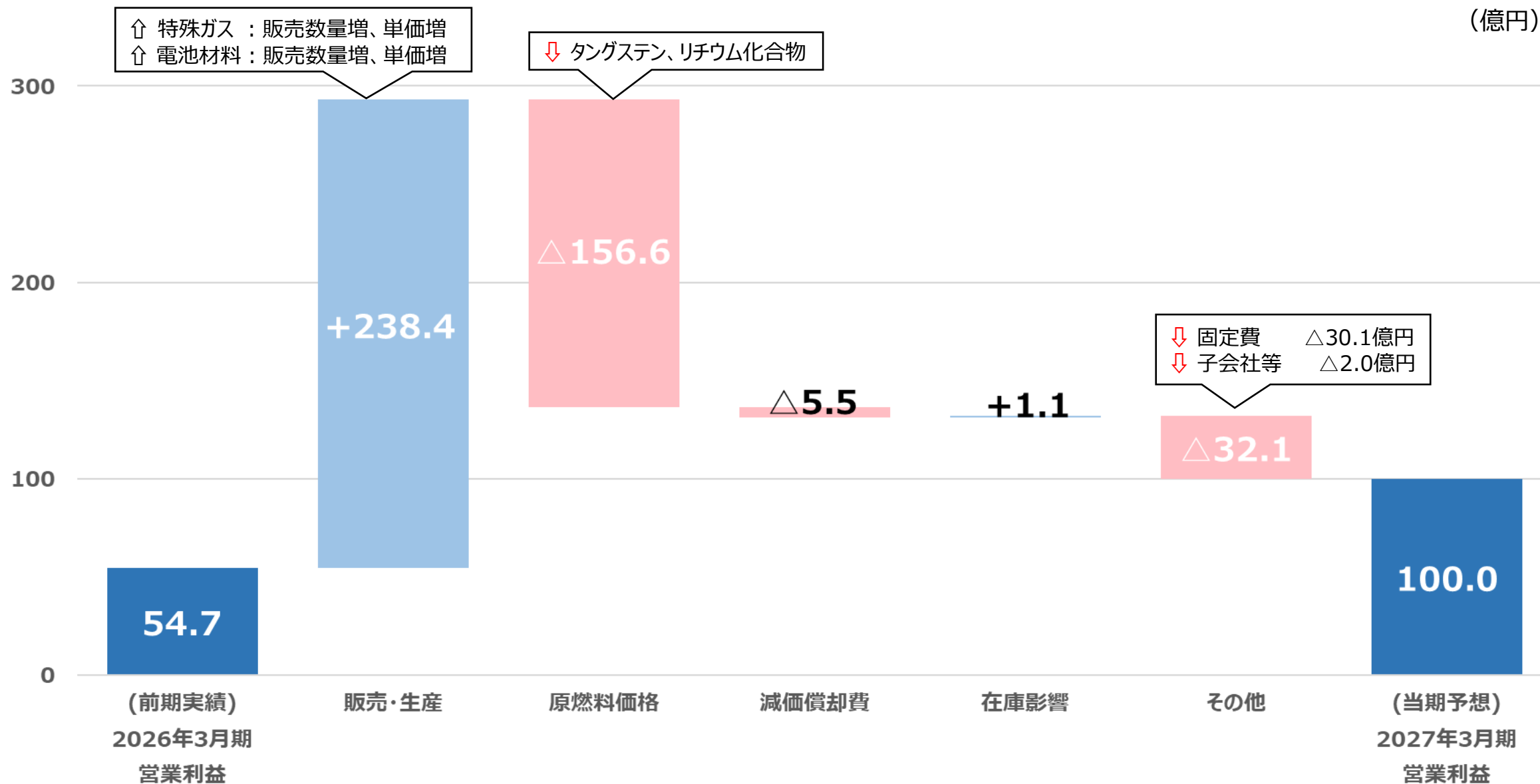
	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率(%)
売上高 (億円)	654	950	296	45.3
営業利益	54	100	45	82.5
経常利益	66	100	33	50.8
親会社株主に帰属する当期純利益	37	68	30	79.6
1株当たり当期純利益 (円)	65.96	118.56	52.6	
為替レート (円/\$)	151	155		

業績予想 (セグメント別)

	売上高			営業利益			
	(億円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減
基礎		80	85	4	1	1	△ 0
精密		525	818	292	49	96	46
その他*		48	47	△ 1	4	3	△ 1
合計		654	950	296	54	100	45
(参考)単体特殊ガス		429	655	225	58	71	13
(参考)棚卸資産評価損		-	-	-	△ 3	△ 2	1
設備投資額		68	64	△ 3			
減価償却費		93	98	5			
研究開発費		23	24	1			

※ その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

営業利益差異分析（前期実績 対 予想）

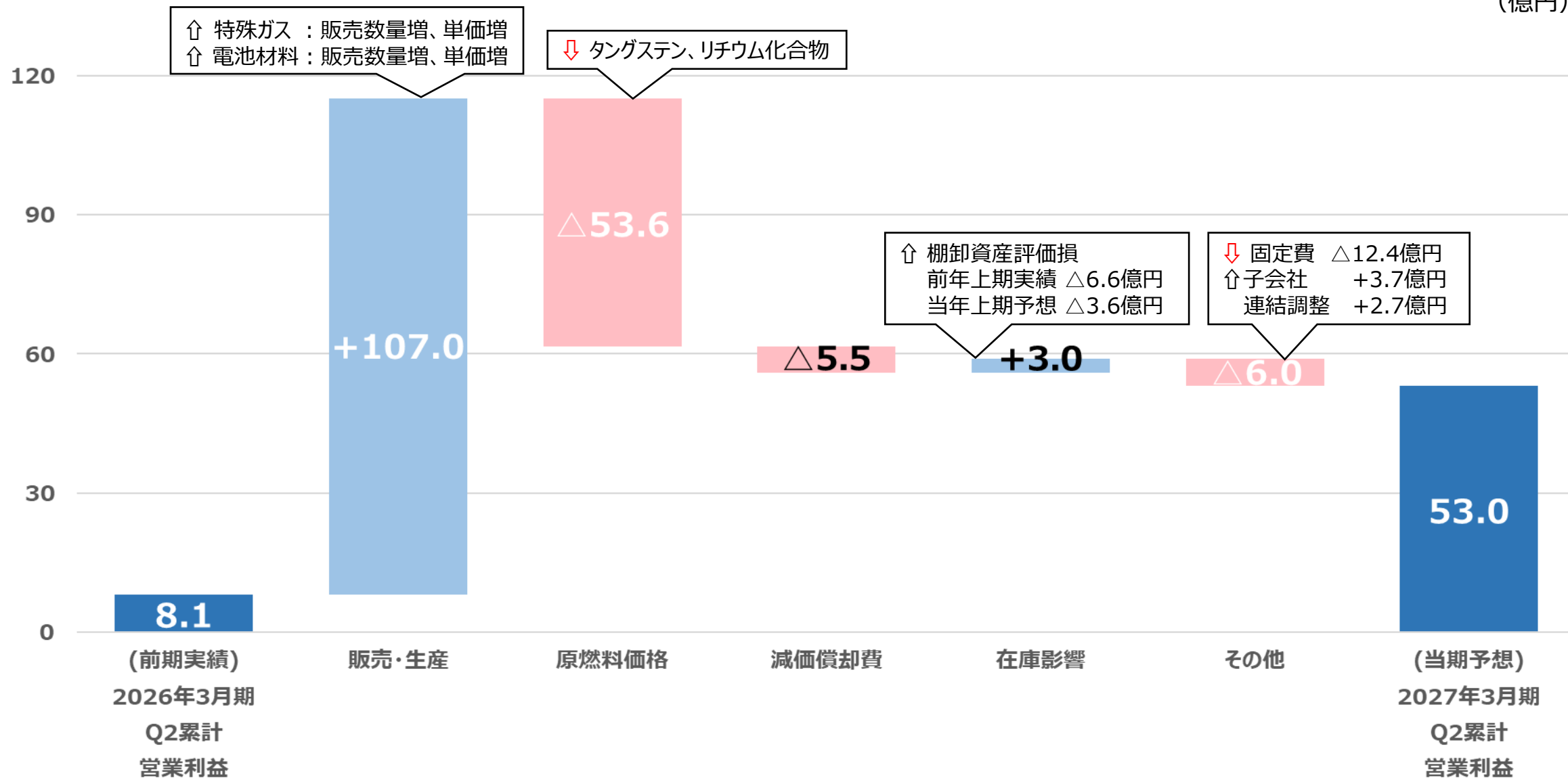


上期実績と予想の比較 (セグメント別)

	売上高			営業利益		
	2026年3月期 上期実績 (億円)	2027年3月期 上期予想	増減	2026年3月期 上期実績	2027年3月期 上期予想	増減
基礎	38	43	4	0	△ 3	△ 3
精密	244	356	111	6	54	47
その他*	25	23	△ 2	1	2	0
合計	308	422	113	8	53	44
(参考)単体特殊ガス	195	293	97	15	44	29
(参考)棚卸資産評価損	-	-	-	△ 6	△ 3	2
設備投資額	51	22	△ 28	※ その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。		
減価償却費	40	46	5			
研究開発費	11	11	0			

営業利益差異分析（前年上期実績 対 予想）

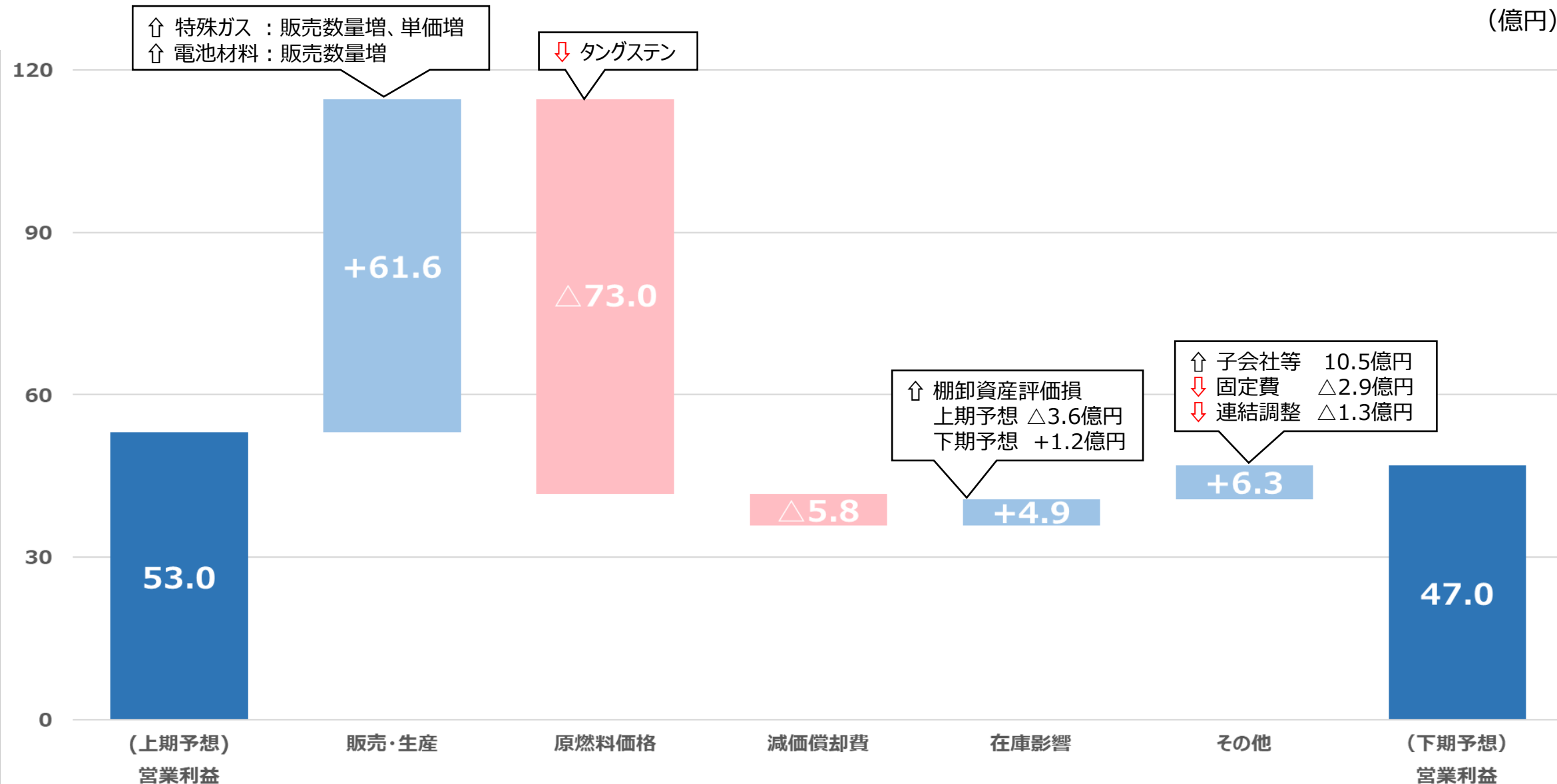
(億円)



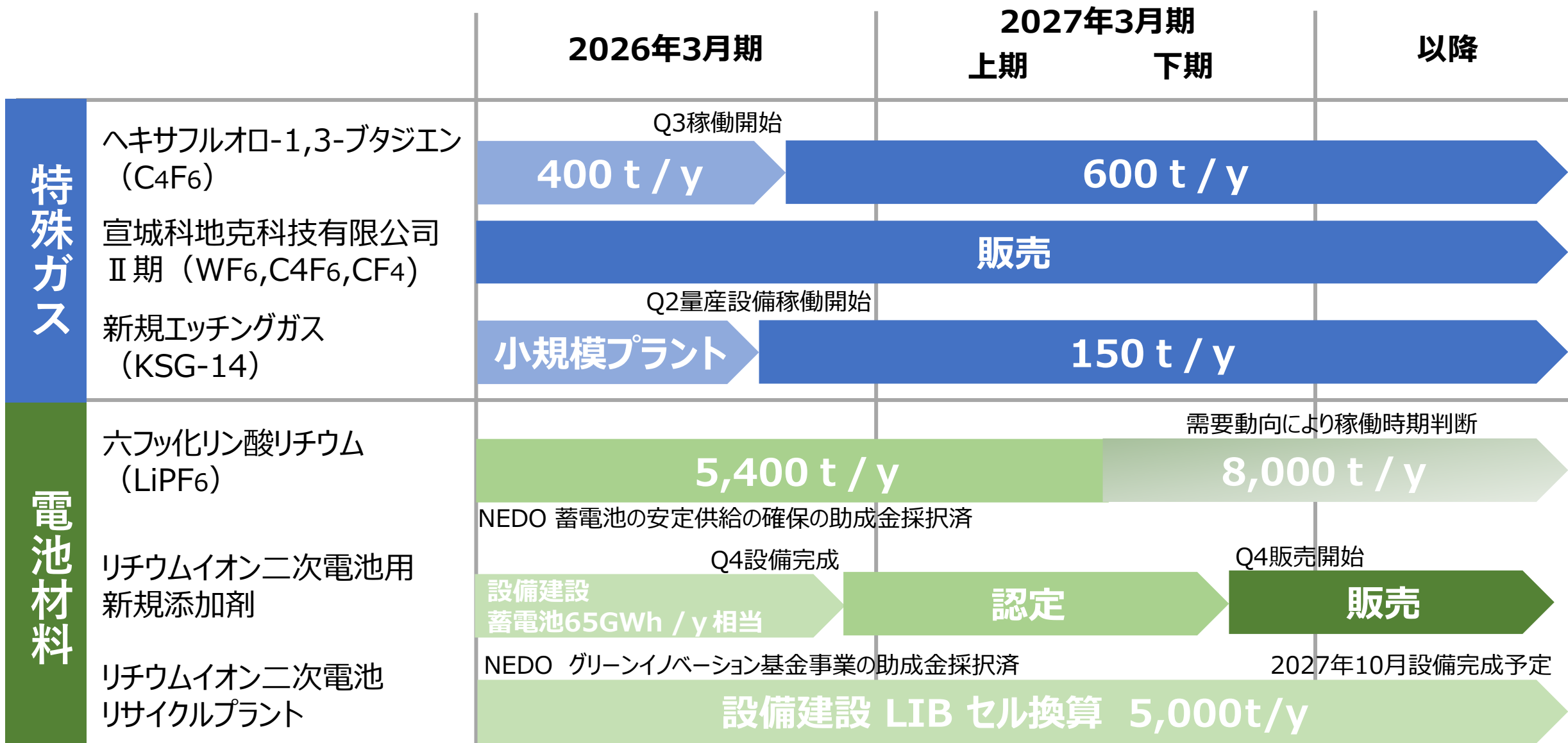
業績予想 上下比較 (セグメント別)

	売上高			営業利益		
	2027年3月期 上期予想 (億円)	2027年3月期 下期予想	増減	2027年3月期 上期予想	2027年3月期 下期予想	増減
基礎	43	42	△ 1	△ 3	4	7
精密	356	462	106	54	42	△ 12
その他*	23	24	1	2	1	△ 1
合計	422	528	106	53	47	△ 6
(参考)単体特殊ガス	293	361	68	44	26	△ 17
(参考)棚卸資産評価損	-	-	-	△ 3	1	2
設備投資額	22	42	20	※ その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。		
減価償却費	46	52	5			
研究開発費	11	12	0			

営業利益差異分析（上期予想 対 下期予想）

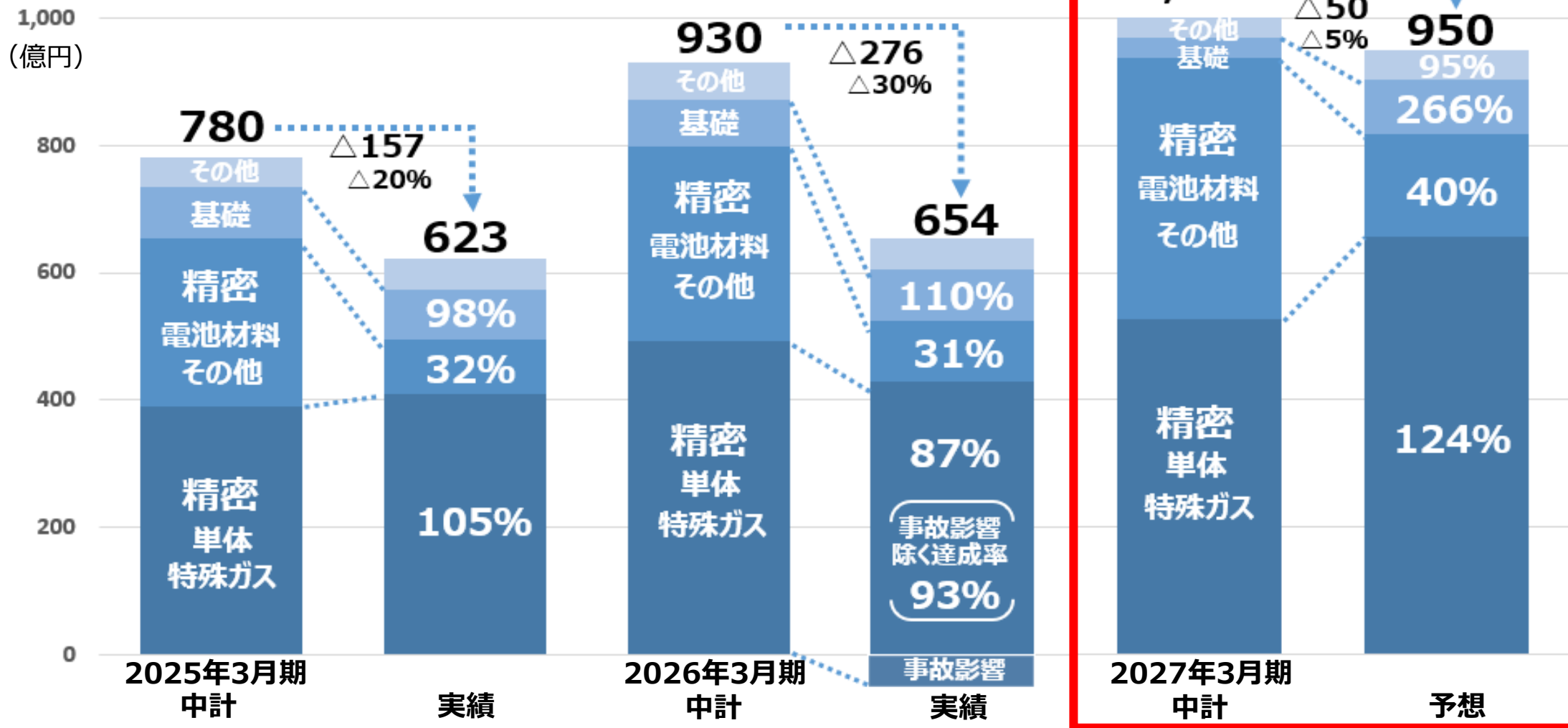


トピックス（主な設備投資の状況）



トピックス（中期経営計画との差異）

- 中期経営計画最終年の売上高の達成率は95%の見込み
- 特殊ガスは計画を超過するも、電池材料が未達見込み



トピックス（宣城KDK）

- コロナ禍での工期延長の影響により、中国工場である宣城KDKに対する出資金の50%（23億円）を個別決算の特別損失として計上。（連結決算は消去されるため、連結業績に与える影響はない。）
- 今年度の宣城KDKの売上高は約40億円（前期 4億円）、Q4より黒字化を見込む。

関係会社出資金評価損（個別のみ）

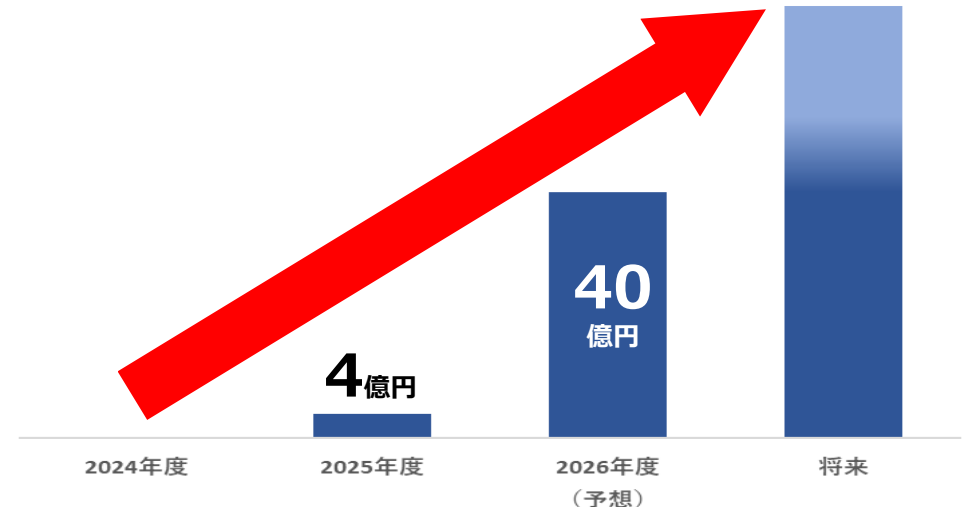
- コロナ禍の影響により、工事完成時期が想定より大幅に遅延。
- 遅延に伴い、投資回収時期が後ろ倒しとなり、当初想定より純資産が減少。その結果、関係会社出資金評価損を特別損失として計上。

	生産品目	当初計画	試運転開始	遅延
I 期	フッ化アンモニウム	2021年1月	2023年9月	2年8ヶ月
II 期	C4F6、CF4、WF6	2024年3月	2024年10月	7ヶ月

出資金 323百万元 × 50% = 161百万元
161百万元（23億円）を特別損失として計上

宣城KDK 売上高

- 2027年3月期は売上高 約40億円を想定。
- 2027年3月期Q4より黒字化を見込む。
- 中国現地販売のほか、日本向けにも販売を開始。中国、日本市場での更なる拡販を行う。



1. 2026年3月期 決算概要

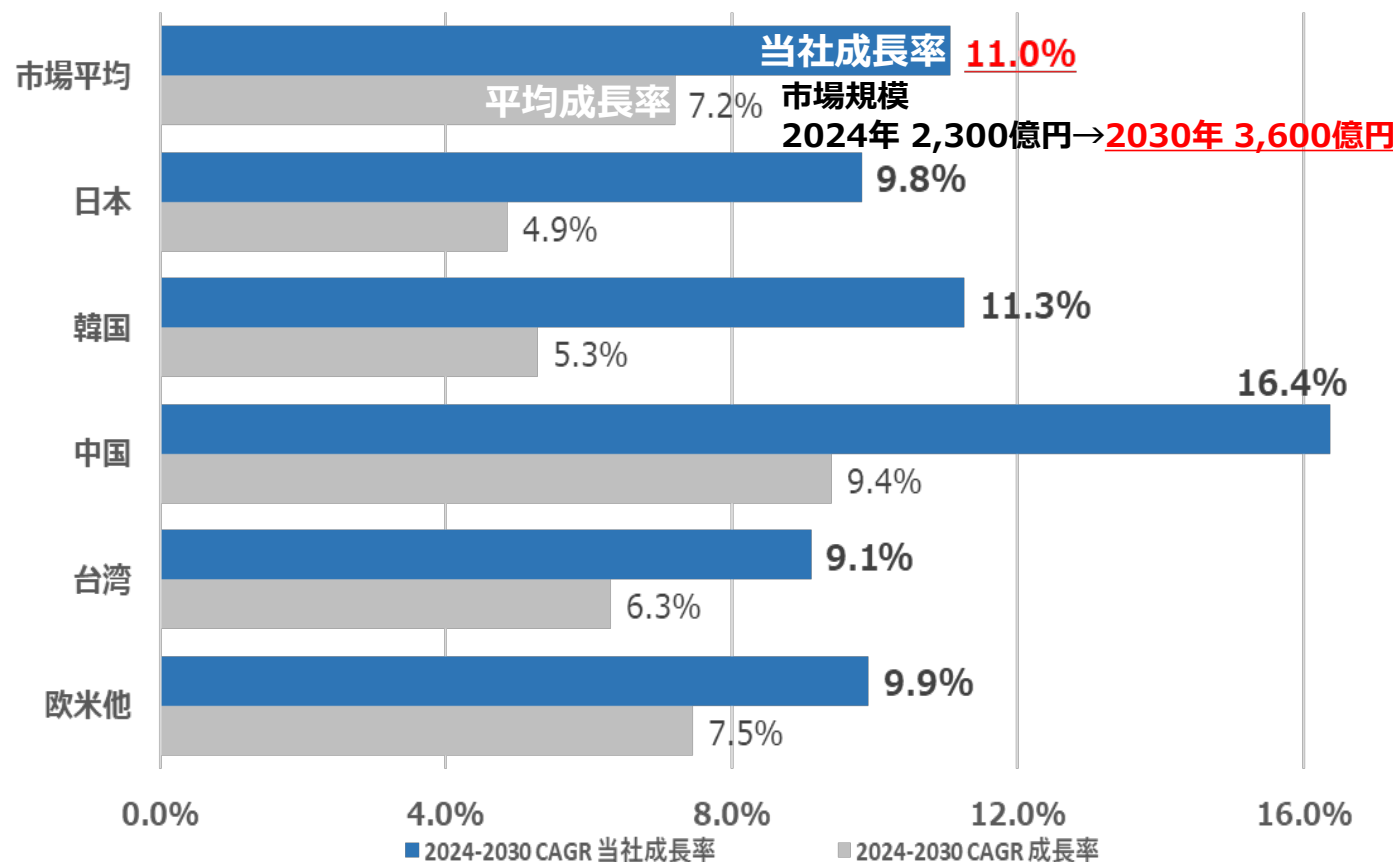
2. 業績見通し・今後の動向

3. 補足資料

特殊ガスの今後の見通しと戦略

- 半導体エッチング&クリーニングガスの市場規模は2030年に3,600億円*に成長見込
- 当社CAGR(2024-2030年)は市場平均7.2%*に対し11.0%を想定
- 当社目標シェア(2030年)は25%以上

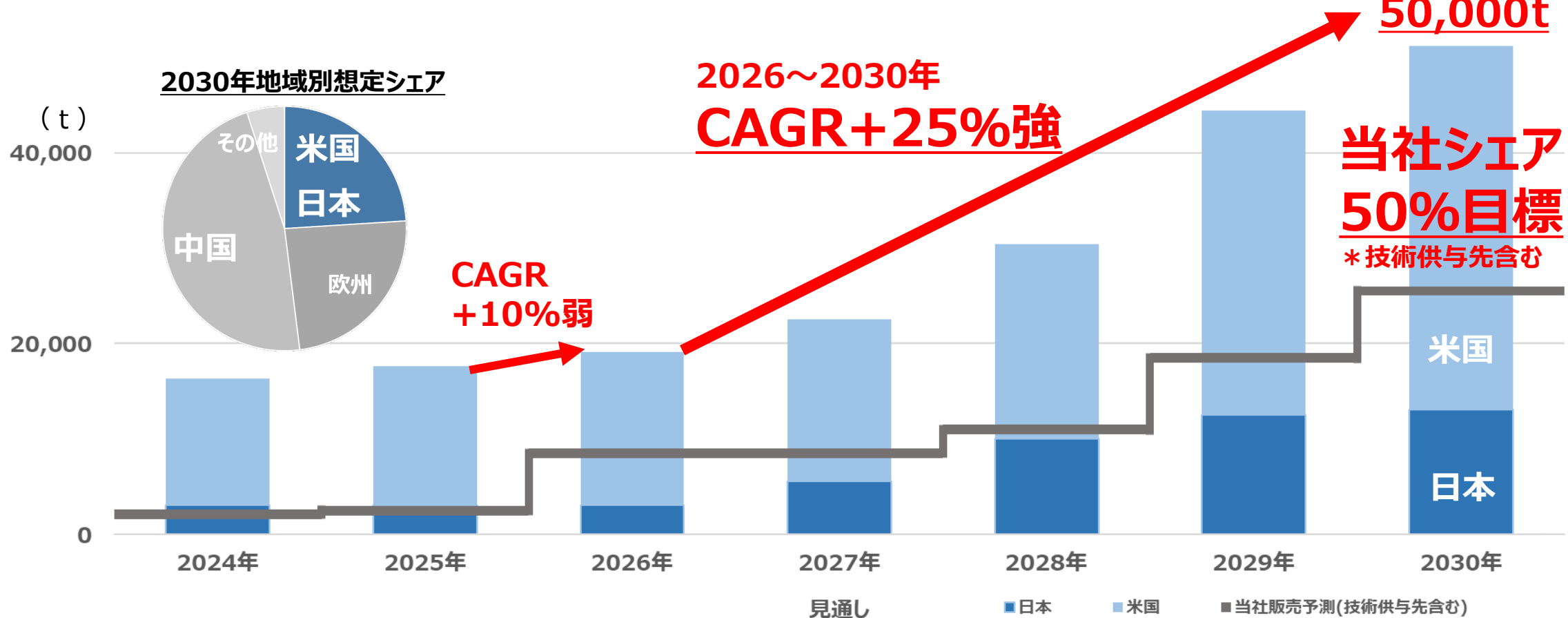
*当社予想



	施策・戦略
日本	渋川・水島工場の生産設備拡大 KSGシリーズの販売拡大
韓国	韓国工場の生産拡張、品種拡大、新製品投入 韓国開発拠点の活性化
中国	中国工場稼働本格開始 韓国工場、渋川・水島工場との連携生産 中国協力企業との連携
欧米他	ライセンスを含めた生産拠点の検討開始 設備メーカー、顧客との開発へ拠点新設検討

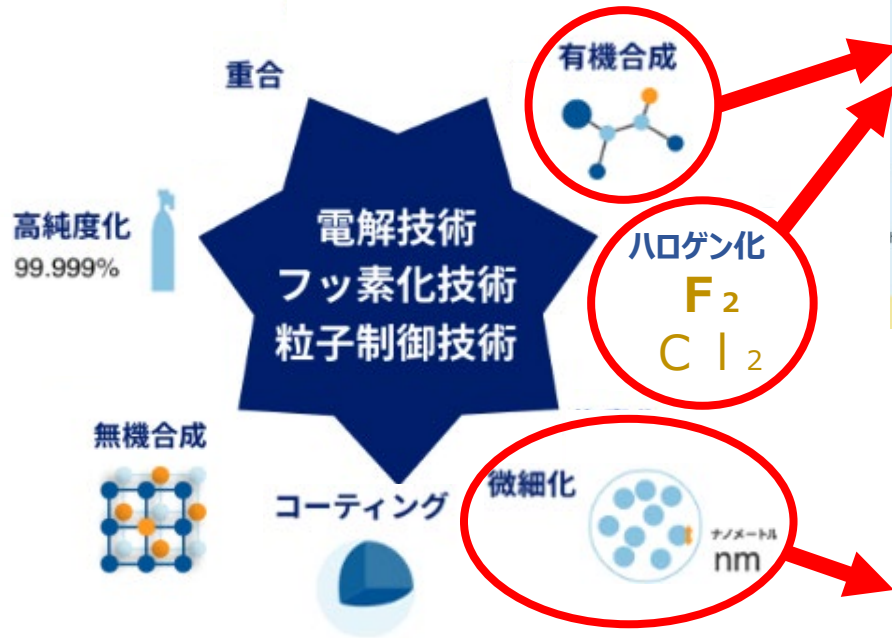
今後の電池材料（LiPF₆）の見通し

- 当社が狙う市場は米国 & 日本市場
- 米国 & 日本市場は2030年に50,000 t *に成長見込 *当社予想
- 脱中国化サプライチェーン（原料、製造）を構築 + Liリサイクルを進める

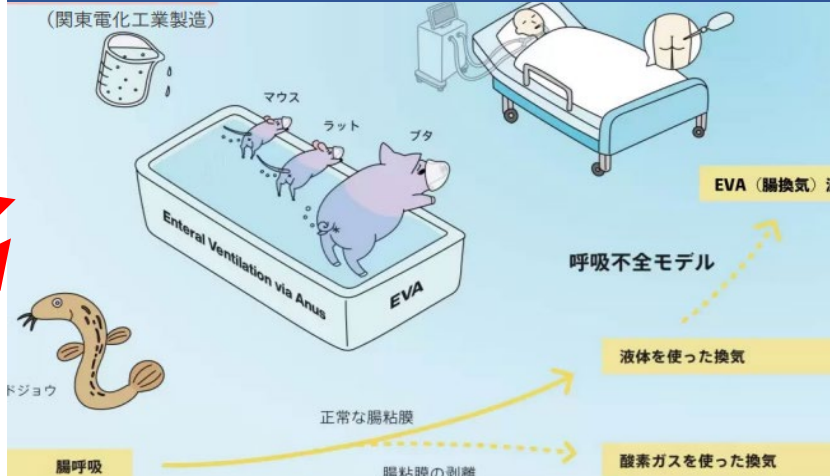


- 腸換気法で当社技術によるパーフルオロカーボンが採用見込
- 微細化技術を活かした高屈折材料を開発、次世代AI スマートグラスのようなデバイスでの使用を想定

当社コア技術



フッ素化学による腸呼吸の実現へ



腸換気技術を用いた新たな呼吸管理法の開発

- 東京科学大学の武部貴則教授らの研究チームによって発明
- 腸換気技術は2024年に**イグノーベル賞**を受賞
- 当社はコアとなる医療材料パーフルオロカーボンを供給

次世代AIスマートグラス



ナノ高屈折材料

- 独自技術により、ナノ微粒子表面性質制御技術による高屈折材料を開発中

名 称		内 容
基礎化学品 事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学品 事業	特殊ガス製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タングステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、フッ素混合ガス、KSG-14、KSG-5等
	電池材料製品	六フッ化リン酸リチウム、ホウフッ化リチウム、ジフルオロリン酸リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。